

北海道各地から産出する黒曜石
その66

～分析方法と各組成グループについての特徴～

～その5～

(20)豊浦組成グループ

豊浦地域で採取される。図1より他の組成グループにも似ているが、図2において豊浦組成グループのCl値が0.15wt.%以上の高い値を示すことが特徴であり、双方を合わせる事で容易に区別がつく。

(21) 釧路 I 組成グループ

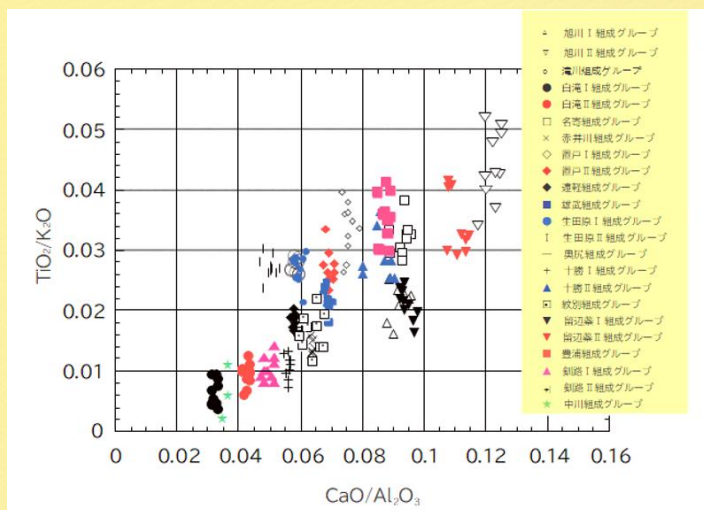
釧路地域から採取される。図1においてCaO/Al₂O₃値は、0.047～0.051の範囲を示し、白滝Ⅱ組成グループの同値(0.041～0.044)と十勝Ⅰ組成グループの同値(0.055～0.057)に近似する。しかし、SiO₂-Na₂O/CaO関係図で比較した場合、釧路Ⅰ組成グループはNa₂O/CaOが6.112～6.598の範囲を示し、白滝Ⅱ組成グループの同値(6.316～7.163)、十勝Ⅰ組成グループの同値(3.820～5.486)のほぼ中間に位置し区別することができる。鏡下では目立った結晶を含まない。

(22) 釧路Ⅱ組成グループ

釧路地域から採取される。図1においてCaO/Al₂O₃値は、0.095～0.120の範囲を示し、これまで分かっている北海道内のどの組成グループにも属さない。鏡下では0.05mm前後の結晶が目立つ。

(23)中川組成グループ

中川地域から採取される。図1においてCaO/Al₂O₃値は、0.035～0.037の範囲を示し、TiO₂/K₂O値は、0.002～0.011、CaO値も0.45～0.47wt.%を示す。白滝Ⅰ組成グループのCaO/Al₂O₃値は、0.031～0.033、TiO₂/K₂O値は、0.004～0.009、CaO値も0.40～0.42wt.%であり区別することができる。



※図1、図2は、
地学シート No.65、No.66を参照

Mukai Masayuki
(学芸員 向井 正幸)
旭川市博物館HP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

